

東京医科歯科大学医学部附属病院
「みんなの健康を育む病院だより」



オアシス



奨学寄附金のお願い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっておりません。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ 問い合わせ先

統合研究機構事務部 産学連携係
TEL : 03-5803-4012
FAX : 03-5803-0179



東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために、国際交流事業、学生育成奨学事業などの「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室
TEL : 03-5803-5009
E-MAIL : kikin.adm@tmd.ac.jp



献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局
TEL : 03-5803-5147



セカンドオピニオン外来とは

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に通院している患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申込みください。通常の外来受診とは異なりますのでご注意ください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、診療情報提供書や資料を用意いたしますので、担当医にお申し出ください。

■ 問い合わせ先

セカンドオピニオン外来
TEL : 03-5803-4568
FAX : 03-5803-0119



梅いち輪募金にご協力ください

梅いち輪募金(東京医科歯科大学医学部附属病院支援基金)は、患者さんから寄せられるサービス改善のご要望を、できることから実現するために活用させていただく基金です。一口1000円からお申込みいただけます。詳しいことは下記までご連絡ください。

■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学医学部附属病院 総務課
TEL : 03-5803-5097
メール : syomu2.adm@tmd.ac.jp



全診療科における完全紹介制の導入について

平成29年4月1日より、全診療科において、完全紹介制とさせていただきます。当院に初めておかけの場合、新たな診療科におかけの場合、前回の来院より3ヶ月以上経過している場合は、原則として他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要となります。

《例》他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)

が必要になるのは…

- ・ある科を受診中の方で、別の診療科を初めて受診したい場合
- ・過去に受診した診療科でも、自己判断により3ヶ月以上受診がない場合

完全紹介制を導入した経緯は、専門的な診療を提供する大学病院としての使命と役割を果たすためですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。



病院長と2017年度研修医たち



迅速で正確な検査データを患者さんの元へ(検査部)



計算窓口 番号発券機
番号が表示されるまで席にかけてお待ちください



梅いち輪募金をサービス向上に生かしています



TMDU
東京医科歯科大学医学部附属病院
梅いち輪募金寄贈
～梅いち輪一輪ほどの暖かさ～

- 2 病院長あいさつ
- 3 患者相談室Q&A
- 4 緩和ケア病棟がオープン
- 5 てんかんセンターがスタート
かかりつけ医検索システム
- 6 新任科(部・室)長のご紹介
- 7 大学内レストラン「やわらか食」スタート/当院の出産サポート/臨床栄養部が開発協力「アクアファン」/医療・健康講座へのご参加
- 8 奨学寄附金/大学基金/セカンドオピニオン外来/梅いち輪募金/全診療科における完全紹介制導入



病院入り口の車イスはご自由にご利用ください



東京医科歯科大学医学部附属病院

病院長あいさつ

患者さんの声を参考に さらに利用しやすい病院へ

患者さんからのご意見には、私たち病院スタッフが気づかないヒントがたくさんあります。すべてのご意見に目を通し、週1回のペースで会議を開いて協議を進め、病院をさらに利用しやすくするために、参考とさせていただきます。



東京医科歯科大学医学部附属病院 病院長
東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科 整形外科学分野 教授

大川 淳 Atsushi Okawa



■座ってエレベーターを 待てる椅子を設置

エレベーターの改修工事中は皆様にご不便をおかけしましたが、お陰様でエレベーター内部の照明も明るくなり、使いやすくなりました。エレベーターを座って待てるよう、エレベーターロビーに椅子を設置しました。この椅子の購入に際しては、皆様からご寄附いただいた『梅いち輪募金』を活用させていただきました。また安全確保のために、エスカレーターでの歩行は原則禁止とさせていただきますので、ご理解ご協力ください。

■駐車場から病院へ安全に 移動できるように

駐車場から病院への移動の途中に駐車している緊急車両のドクター・カーが、利用者の歩行の妨げになるというご指摘がありましたので、ドクター・カーの駐車スペースを移動させ、路面に歩道を示す標示を描いて、安全に歩行できるようにしました。

■入院をサポートする入院支援室

入院前に入院生活の説明や患者さんの状況を把握することで、患者さんが安心して治療に専念できるよう、「入院支援室」を設置しました。看護師・薬剤師・栄養士・社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）・事務職員が病棟スタッフと十分な情報共有を行うことで患者さんにより良い療養環境を提供できるよう積極的に多職種連携を行っております。本年3月より一部の診療科で試行開始し、今後全診療科での実施を目指して準備を進めています。



■緩和ケア病棟

がん患者さんのターミナルケアや疼痛管理の場として関東圏の国立大学で唯一の「緩和ケア病棟」を今年4月から開棟し、すでにたくさんの患者さんにご利用いただいております。



■救急患者さんへの 迅速で的確な対応を進めました

退院支援として、近隣の診療所、病院の先生方にお集まりいただき、医療従事者同士が互いの顔が見える連携を積極的に進め、情報交換と情報共有をすることで、患者さんが退院後も安心して地域の医療施設に通院できるように努力しています。さらに当院では地域病院から直接当院救命救急センターに患者さんを紹介できる「緊急

プライオリティコール」というシステムを開始しており、たくさんの救急患者さんをサポートしております。

■口腔ケアとロボット手術で 特色ある医療を提供

大学の特色でもある医科と歯科との連携を進め、手術前からの口腔ケアにより合併症の削減を目指しています。脳卒中発症後の患者さんへの口腔ケアで、食べる、話すなどの機能回復や維持を行っています。

今秋にはロボット手術を開始する予定ですが、すでに健康保険の適応となっている腎泌尿器系のみならず、直腸手術などにも対応できるよう準備を進めております。

今後も患者さんや利用者のご意見に耳を傾けて、より患者さんに配慮した病院になるように努力してまいります。

患者相談室Q&A ■副病院長・看護部長・患者相談室長 川崎つま子



患者さん、利用者の声をサービス向上に 生かします！

Q 入院患者さんやそのご家族に対するサービス向上の取り組みは？

チーム医療の充実に力を入れています。医師がチームリーダーとなり多職種でカンファレンスを行いながら、患者さんにとってより良い医療が行えるように日々取り組んでいます。また、患者さんやご家族への説明を丁寧

に行っているのも当院の特徴です。こうした取り組みを通して、患者さんから高い満足度を得ているのではないのでしょうか。

Q 待ち時間を短くするための取り組みは？

外来患者さんの待ち時間が長くなっていることは、患者相談室内だけではなく、病院としても重要な問題だと認識しております。地域の先生方からご紹介頂いた患者さんで、当院での治療が終了した方は、できるだけ地域にお返しすることを各診療科にお願いしています。この取り組みによって、待ち時間の緩和に繋がることができ

ると考えます。また今後、待ち時間調査を実施し、当院の待ち時間の実態をモニターし続けていきたいと考えています。診療科による特徴もありますので、調査結果をもとに診療科と協議しながら、待ち時間短縮の取り組みをしていきたいと思っております。

Q 患者さんが利用しやすい病院にするための取り組みは？

本年3月からは医療連携支援センター内に入院支援室を設置し、入院支援室にて一部の診療科を対象に外来で行っていた患者さんへの入院説明を行っています。これまで外来で医師と看護師が行っていた説明の一部を担当することによって、外来業務の軽減を図っています。入院支援室では、ベテランの看護師が対応に当たり、患者さんの疑問や悩みにもお応えしています。そのため患者さんやご家族から大変喜ばれています。



関東圏の国立大学で
唯一の

緩和ケア病棟が オープンしました



個室



介助浴室



家族控室

緩和ケア病棟について

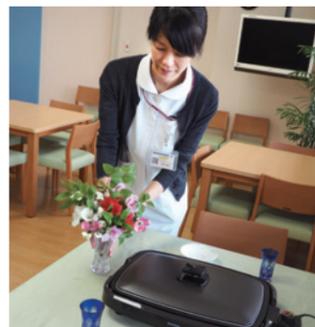
緩和ケア病棟は、治癒が見込めないがん患者さんが直面する心身の苦痛（痛み、息苦しさ、食欲低下、吐き気、眠れない、体がだるい、不安、悲しみなど）に対して治療やケアを行う専門の病棟です。自分らしい時間を過ごせるようチームで治療・ケアを提供しています。

緩和ケア病棟では、がんそのものに対する治療である手術や抗がん剤治療、ホルモン治療などは行いません。医師、看護師、臨床心理士、薬剤師など様々な職種が協力して患者さん、ご家族を支えています。

入院していただける患者さんについて

当院の緩和ケア病棟に入院していただける患者さんは現在、以下の通りです。

- がんまたは後天性免疫不全症候群に罹患されており、患者さん・ご家族が緩和ケア病棟について理解し入院を希望され、病気に伴う心身の苦痛のために自宅療養が困難となっている方
- 医師により入院が必要と判断されている方
- 当院に外来通院あるいは入院しており、緩和ケア病棟入棟登録が済んでいる方
- 入院後、症状緩和を行い安定している場合は、退院または転院を検討することに同意されている方
- 上記について、本人・ご家族ともご理解・ご了解されている方



※他院の診療を受けている患者さんの入院について
今後、他院で診療を受けている患者さんの入院も受け入れる予定です。受け入れ開始時期については、準備が整ってからホームページに掲載いたします。

入院費用

入院費は、保険診療・高額療養費制度の対象になります。ただし、食事負担分・個室差額料は対象外です。*また、各種加算により額は多少変わることがあります。

部屋代と食事負担額

部屋の種類	部屋数	料金（一日あたり・税込）	主な設備・備品	食事負担額
有料個室	7	16,200円	トイレ有、冷蔵庫・テレビ無料	1食：360円
一般個室	8	0円	トイレ無、冷蔵庫・テレビ有料	

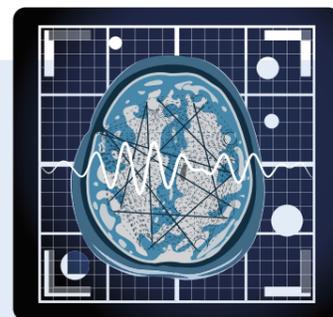
お問い合わせ先

03-5803-4122
(月～金 9:00～15:00)

緩和ケア病棟 入院相談外来予約専用
電話
※病院ホームページもご覧ください。



てんかんセンター



てんかんセンターがスタート

乳幼児から高齢者、
急性から慢性までてんかん患者さんをケア

平成29年8月1日からてんかんセンターがスタートしました。てんかんは、脳の神経が一時的に過剰に活動して、意識を失うなどの発作症状を繰り返す病気で、その原因や症状は人によって異なります。つまりてんかんは、脳が発作を繰り返す病気の総称で、乳幼児から高齢者まで、どの年齢層でも発症する可能性があります。

てんかんの患者数は全国で約100万人と推計され、70～80%は抗てんかん薬などによって発作を抑えることができ、残りの20～30%は薬が効きにくい「難治性てんかん」です。

当院のてんかんセンターでは、てんかん発作を引き起こす脳の病気を発見するために、脳の画像検査、脳波検査、血液検査などを行い、患者さんの年齢、症状、社会生活などを考慮した上で、適切な治療薬の選択と、服薬指導を行います。

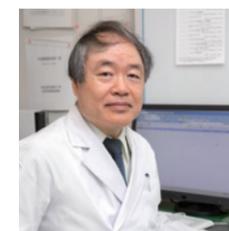
薬で症状が治まらない場合は、てんかんの病巣を詳細に突き止めて、外科的な治療を行い、発作を抑えることで手術後の生活の質の向上に努めます。大学病院の特徴を生かして、様々な診療科と連携しながら、「ビデオ脳波モニタリング」や「高精度MRI」、PET・SPECT等の検査、外科治療などを行い、高度で包括的治療が可能なたんかん診療施設として活動してまいります。

【主な診断機器】

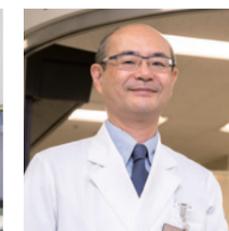
長時間ビデオ脳波モニタリング / 3T MRI / FDG-PET / IMZ-SPECT、脳血流SPECT



前原 健寿
Taketoshi Maehara
脳神経外科 科長



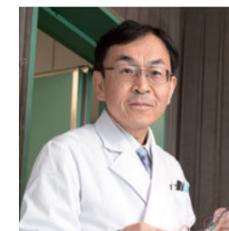
西川 徹
Toru Nishikawa
精神科 科長



横田 隆徳
Takanori Yokota
神経内科 科長



森尾 友宏
Tomohiro Morio
小児科 科長



東田 修二
Shuji Tohda
検査部 部長



重光 秀信
Hidenobu Shigemitsu
集中治療部 (ICU) 部長



大友 康裕
Yasuhiro Ootomo
救命救急センター センター長



column かかりつけ医検索システム

当院と連携をしている、ご自宅や職場近くの「かかりつけ医（普段診てくれる身近な医師・歯科医師）」を検索することができるシステムが、当院のホームページでご利用いただけるようになりました。現在440件の病院情報の中から、ご希望のエリア・沿線を選び、検索することが可能です。



<http://tmd-renkeisystem.com/>

column 『忘れられない患者さん』

患者さんに励まされて頑張る職員の姿を本にまとめました！

本院の第一線で働く職員の仕事への思いを1冊の本にまとめました。タイトルは『忘れられない患者さん』で、職員の心に残る「忘れられない患者さん」の物語を募ったところ、たくさんの熱い話が集まり、75の心温まるストーリーが綴られています。本は無料でご希望の方に差し上げております。また病院ホームページでもご覧いただけます。



新任科(部・室)長のご紹介

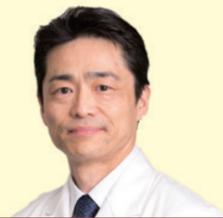
新たに科長、部長、室長になった当院スタッフから皆様へのメッセージをご紹介します。



古賀 英之
Hideyuki Koga
運動器外科 科長

世界最先端の 関節外科治療を目指します

2017年4月より就任いたしました。運動器外科は診療科としては整形外科として、大学院整形外科学分野と共同して活動を行っています。特に運動器外科学分野として、関節系整形外科の専門的治療(スポーツ外傷の治療、関節鏡手術、変形性関節症に対する治療、人工関節置換術など)を中心に、患者様一人一人に世界最先端の関節外科治療を提供することを目的としています。



工藤 敏文
Toshifumi Kudo
末梢血管外科 科長

くび・からだ・手足の動脈・静脈疾患に対する 先進医療を提供します

2017年4月より就任いたしました。血管外科領域の診療は、最近10年でカテーテル治療の技術・デバイスの発達とともに著しい変化を遂げました。当科はこのような新しい治療法を積極的に取り入れるとともに、従来の外科手術と組み合わせたハイブリッド治療としても応用し、患者さんごとに最適な「からだに優しい治療」を選択し実施しています。



平尾 見三
Kenzo Hirao
循環器内科 科長

循環器病の患者さんに最新で安全な 専門医療を提供します

2017年4月より就任いたしました。当科では虚血性心疾患・不整脈・心不全をはじめとして循環器全領域の診療が可能です。特に、急性心筋梗塞などの緊急性疾患診療はもとより、他院では対応が困難な重症心不全へのデバイス治療、不整脈のアブレーション治療、感染したリード抜去など難易度、専門性の高い治療が可能です。また、新規治療機器についても、治験段階の早い時期からいち早く臨床導入しております。スタッフ一同、患者さんの安全に十分に配慮し最新・最適な医療の提供を心がけております。



北川 昌伸
Masanobu Kitagawa
病理診断科 科長・病理部 部長

ゲノム医療・個別化医療に 対応できる最新の病情報を 発信します

2017年4月より就任いたしました。これまで通り病理形態診断を確実にできる体制を整えるとともに、新たな分子標的治療や個別化医療に対応できる病情報を最新の技術を導入しながら発信したいと考えています。また、全国から病理専門医を志す方が集まる当大学病理部では充実した研修体制を構築し続けていけるよう努力いたします。



中島 一浩
Kazuhiro Nakajima
事務部 事務部長

病院スタッフが心を一つにして

2017年4月から、前任の吉原事務部長の後を受けて、信州大学医学部附属病院から赴任しました。事務部門は、総務課、管理課、医事課、医療支援課、企画室、医療連携支援センター事務室の4課2室で構成されています。それぞれの部署で、専門職としての意識を持ち業務に取り組んでいます。医療を取り巻く環境が急激に変化する中で、病院スタッフが一つになって「質の高い病院」を目指し、大学病院としての使命を果たしていくように我々も貢献していきたいと思っております。



藍 真澄
Masumi Ai
臨床研究監視室 室長

安全性、適切性の観点で 実施中の臨床研究を 監視しています

2017年4月より就任いたしました。当院では、多くの治験や臨床研究が行われ、多数の患者さんにご協力頂いています。当室では実施前の各審査委員会とは独立して、実施中の監視を行い、研究参加者の方々を含め皆様が安心して当院を受診できるよう努めています。

トピック1

摂食嚥下障害の方もおいしく食べられる やわらか食がスタート

東京医科歯科大学医学部附属病院、歯学部附属病院では、約20年間にわたり、食べる機能の障害である摂食嚥下障害を持つ患者さんの生活の質の向上を目指して、多職種のスタッフが連携・協力して活動してまいりましたが、我々が活動していく中で、このような患者さんは、外食を楽しむことが困難であることに気がきました。そこで、このような状況を改善するための第1歩として、全国の病院に先駆けて、東京医科歯科大学内のレストラン「あるめいだ」で“本格的”で“食べやすく”、“おいしい”やわらか食事メニューを提供させて頂き試みを開始致しました。



【大学内レストラン あるめいだ】

営業時間 平日10:00~20:30/土曜日11:30~16:00(日曜日・祭日・年末年始休業)/TEL:03-3811-9607

詳細はロビー等で配布しているパンフレットをご覧ください。

トピック2

当院で出産をお考えの方へ 出産パンフレットを ご覧ください

当院では、リスクの低いと思われる妊娠から、高齢出産や他の診療科と連携が必要な合併症をお持ちのハイリスク妊娠まで広く対応しています。また、ご家族による立会い出産も行っています。NICU(新生児集中治療室)もあり、処置を必要とする赤ちゃんも積極的に受け入れています。妊娠中のすべての女性が新しい生命と無事に会えるよう、大学附属病院ならではのチーム医療が万全の体制でお迎えます。



詳細は周産女性診療科で配布しているパンフレットをご覧ください。

トピック3

臨床栄養部が 開発協力した 経口補水液「アクアファン」

「アクアファンMD100」は、マルチデキストリンとビタミンB1を配合し、効率よくエネルギーも補給できる経口補水液です。手術前の経口補水を目的に臨床栄養部と麻酔・蘇生・ペインクリニック科が開発協力しました。手術前だけでなく下痢、嘔吐、発熱などによる脱水時や食欲不振時にも適した飲料で、こどもからお年寄りまで幅広い年齢層にご使用頂けます。ご使用にあたって不安のある方は、医師、管理栄養士等の専門家にご相談ください。



トピック4

医療・健康講座にご参加ください

当院の各診療科・センターなどでは、患者さん向けの様々な医療・健康講座を開催しております。病院1階の掲示板やホームページに、日時・内容を表示してありますので、ぜひご参加ください。

